

## 令和2(2020)年度 スマートネイチャーシティ(SNC)ちとせ事業 実績報告書

令和3年3月20日

報告者(所属学科・職名・氏名) : 情報システム工学科・教授・小松川浩

事業名 : 学習弱者に対する義務教育オンライン学習支援方策と運用指針の検討  
-千歳市教育委員会と連携したコロナ対策-

## 事業報告 :

コロナウイルス感染の影響で、千歳市内でも3月は休校が続き、子供達の学びが阻害されました。こうした対策の一環で、民間による有償のオンライン学習があるが、当然のことながら全家庭で享受できる訳ではありません。さらに、不登校の生徒・児童は、今まで地域の学習支援施設を活用した支援を受けてきましたが、今回の感染症の影響で施設閉鎖等により学習機会を失っています。このように社会的な「学習弱者」に対する実効的な学習支援は、千歳市においても喫緊の課題といえます。

この課題に対して、本研究では、(1)大学の教育資産である学生力と、(2)千歳市と連携を図って培ってきた知的資産であるeラーニングを活用して、家庭でのオンライン教育を通じた学習支援方策と運用指針の確立を目指しました。本取組は、地域貢献を第一義の目的として推進しましたが、義務教育におけるオンライン教育に関する経験知は日本社会ではほぼ無く、一連の学習支援方策や運用指針に関する知見の提供は極めて重要ということで、北海道教育委員会にも随時情報提供を行い、研究を進めました。体制図を図1に示します。

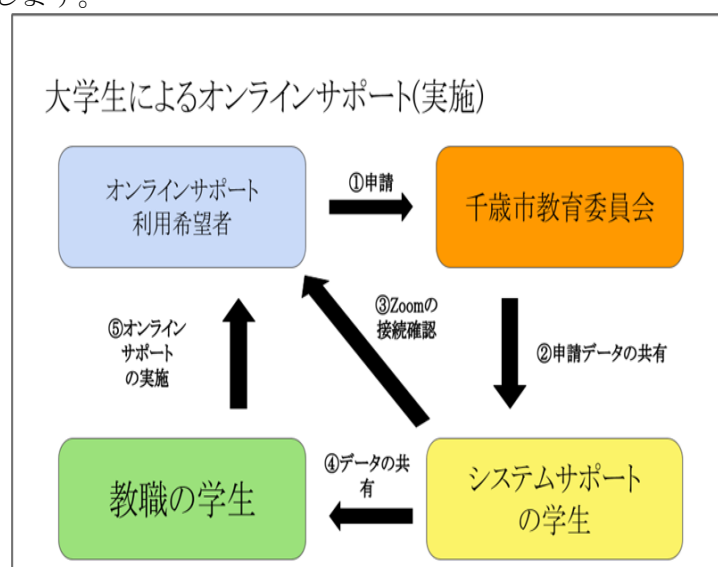


図1 オンラインサポートの体制図

オンラインサービスについては、学内の事務局を研究室が担当し、情報の教職学生(4年生4名、3年生4名)のプロジェクトチームを編成して、千歳市教育委員会と連携して、サービスを開始しました。サービスを受けた学習者は、小学生1年から中学3年まで、62名が受講しました。4月29日から計12回で、延べ400名が参加しました。

オンラインサポートでは、eカレッジで実施しているeラーニングシステムを教材として活用して、Zoomで画面共有しながら、質疑応答に答える形式としました。学習者は、オンラインサポートの時間外でも自学自習で取り組むこととし、オンラインサポート時間帯で学習の仕方や進捗の管理を行うことにしました。この際、教師役のばらつきをなくすため、指導案などをマニュアル形式で整備して、これ

に沿って指導をすることにしました。なお、担当の教師は本学の教職課程の学生であることから、マニュアル以外の対応についても柔軟に対応することとし、たとえば、1年生のようにeラーニングが無い内容については、個別に教材を用意して対応を図ることとしました。図2にeカレッジでのオンラインサポートなしとオンラインサポートありでの、eラーニングの取り組み状況を示します。オンラインサポートありの方が全体的に学習者数の多いことが分かります。さらに、オンラインサポート当日（定期的なピークが見られる位置）の後でも継続的な学習が見られ、個別の学習指導の効果が見てとれます。

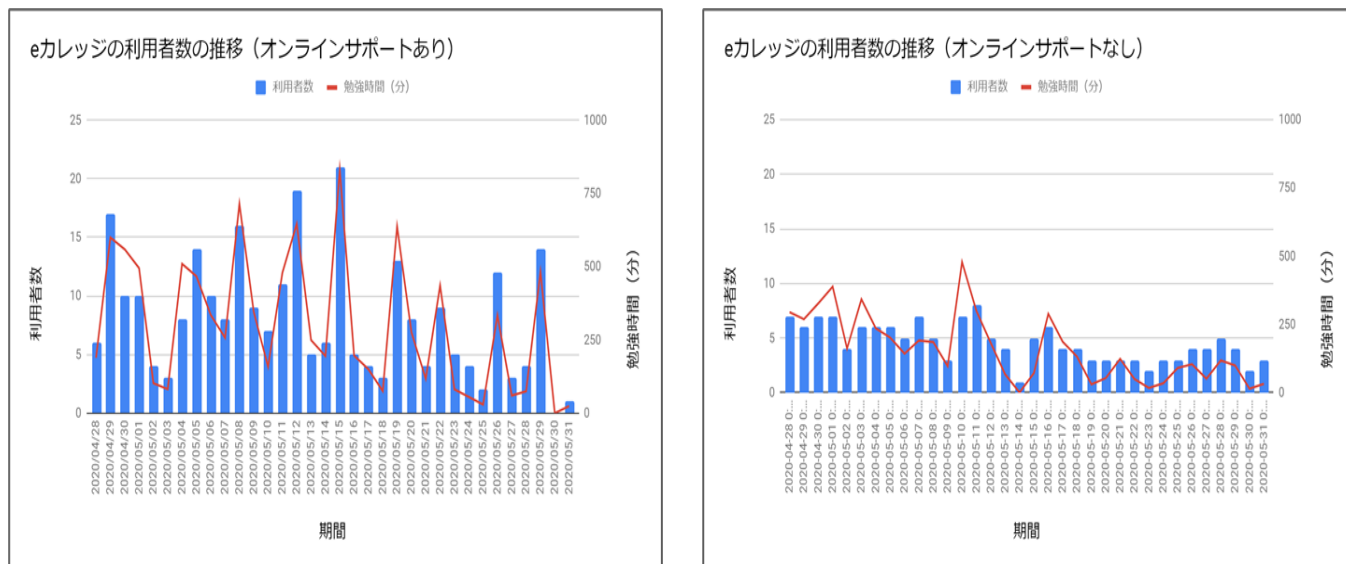


図2 eラーニングの取り組み状況

最後に、一連の取り組みを通じたオンラインサポートの実施方法について報告します。フレームワークの確立もおおむねできており、運営に関する体制面や各フェーズでの指導方針についてとりまとめました。その成果は、以下の文献にまとめています。

米田司 修士論文(2020) 公立千歳科学技術大学：義務教育での eラーニング活用方策の検討  
 Investigation of Utilization Policy of e-Learning In Compulsory Education (公立千歳科学技術大学 所蔵)

また、ボランティアで参加頂いた教職関係の学生や、研究活動の一環で一年間事務局を努めてくれた学生は、千歳市教育委員会より、2021年3月に感謝状が送られた。